



Amihari
visitor center

Vol.125
2026.3



日光浴はいいなあ～

ニホンモモンガが現る！

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

のんびりムードの “ニホンモモンガ”

際限なく雪が降り続いた1月から一転、2月に入ると厳しい寒さが和らぎ、日差しに春の兆しを感じられたある日、森の中でニホンモモンガに出会いました。森のあちらこちらに調査のため設置しているモモンガ用の巣箱を点検し、残りの一つを確認していたところ巣箱の入口から灰褐色のモモンガがスルッと出てきて屋根によじ上り、そのままじっとするではありませんか。この日は雪がちらついているものの快晴で、歩くと汗ばむような陽気とあってか、夜行性にも関わらず日向ぼっこでもしようというのでしょうか？何かの気配を感じて様子を見に来たにしては、こちらを警戒するでもなく「今日は暖かいなあ」とでも言いたげな、のんびりした印象です。時折左右を見渡すものの急いで巣箱に戻るわけでもなく、そのまま屋根に腹ばいになるなど至ってマイペース。少し離れていても、視界が広く暗闇の中で活動できる視力のよい大きな目が際立ち「モモンガ＝愛らしい」は疑う余地がありません。しばらくすると徐に動き出し、すっかり我が家となった様子の巣箱へ潜り込んでゆきました。人知れず静かに暮らすモモンガがこれからもずっとこの森で過ごせるよう見守り続けたいと思います。

What is “Nihonmomonga”?

『ムササビより小さい リスの仲間』

リス科

頭胴長：約 14～20cm

分布：本州～九州

日本固有種、いわてレッドデータブックCランク。山地帯から亜高山帯の森林に生息し樹上で活動する。名前の由来は毛が美しい「毛美（もみ）」からきたという説もある。

(画像提供：大堀 拓 氏)

(参考図書：「北の森に舞うモモンガ」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

光 と 色 の
い ろ い ろ
- Point of view -

📷 No. 12

強まる日差し、雪どけと共に躍動する生きものたち

今年の冬は厳しい寒波が長く続き、網張の森では生きものの足跡を目にする機会がほとんどありませんでした。森に入るたびにプローブで積雪を測っていますが、今季の最大積雪は215cm。過去を振り返っても、トップクラスです。冬芽やササを主食とするウサギやカモシカにとって、この深い雪は決して好条件ではなかったでしょう。



ヤマドリのパア
20170501 撮影



ツキノワグマ 20170430 撮影



クマバチの仲間
20190429 撮影

さらに昨秋は、ブナやミズナラ等の木の実が不作でした。十分に脂肪を蓄えられなかった影響なのか、1月にはツキノワグマが盛岡市内に出没したという報告もあります。秋に木の実を貯え、冬季にそれを頼りに生きるリスやネズミたちも、食料が足りていたか気がかりです。ネズミが減少すれば、それを捕食するキツネやテン、フクロウなどの生存にも影響が及びます。

生きものにとって冬を越すことは大きな試練であり、命を落とす個体も少なくないと想像されます。

それでも、自然の営みは遅しく続いていきます。たとえば、捕食者が厳冬によって数を減らせば、被捕食者は次第に増加へと転じ、増減を繰り返しながら、全体としてのバランスは保たれます。

また、厳しい冬を乗り越えた個体は、その環境に適応する力を備えた存在であり、次の世代へより強い遺伝子を残します。冬の試練も、長い時間の流れの中では、森の健やかさを支える大切な循環の要素だと言えそうです。やがて雪がとけ、越冬した生きものたちを祝福するかのように植物が芽吹き、留鳥が歓喜に沸いて森は再生します。



ニホンカモシカ
20210412 撮影



トウホクノウサギ
20190425 撮影



アミハリ・バース
Vol. 68 Final

ミヤマガラス

科名：カラス科
全長：約47cm
生態：冬鳥
分布：全国

カララカララ...



網張温泉スキー場のオフシーズン、ゲレンデ上空を20羽くらいの群れで飛ぶ、ミヤマガラスを見かけた事があります。ハシボソガラスに比べて一回り小さく、嘴の基部が白っぽく、頭部のてっぺんが平らに見えるのが特徴です。渡りの途中だったのか、鎌倉森方面に少し立ち寄ったかと思うと、やがて山の向こうへ消えていきました。静かなゲレンデを吹く風はまだ冷たいものでしたが、これから訪れる春の気配を感じさせる出来事でした。



ベスト写真で綴る！

「岩手山カレンダー」撮影エピソード（6）

－中山大太郎さん22年の軌跡－

撮影日：2023年5月4日

4月「小アルプス」（鬼ヶ城尾根南端から） 撮影日：2016年4月5日



この日は馬返しを6時17分に出発しました。2合目でアイゼンを装着し、5合目で軽食を取り、6合目からお鉢に直登しました。そこでイヌワシのような姿を目にしましたが残念ながら撮影することはできませんでした。奥宮にお参りし、9合目の避難小屋にて昼食を取りました。小屋を出て御神坂分岐へ向かおうとした時、お鉢から下ってくる人が見えました。絵になると思い、自分の足跡が残らないようフレームから外れるように急いで駆け上がりました。走ったつもりでも気持ちだけで足が追いつきませんでした。息を切らしたのを覚えています。この時カメラには広角レンズを装着していましたが、望遠レンズに交換する暇は無く、そのまま夢中で撮影しました。この写真はかなりトリミングをしています。圧倒されるほどの景色ですが、人が映っていないとこの写真は成立しません。天気は良好でした。撮影は13時頃で光線も絶妙でした。先月もこの場所を歩いています。この日は雪が少し減り、険しさが増していて、まるで小さなアルプスのようでした。その後、御苗代湖が見える地点まで行き、同じルートを戻り9合目の避難小屋で約45分休憩しました。またお鉢に登り返して写真を撮り、馬返しに到着したのは19時43分でヘッドランプでの下山でした。この写真は2017年の「岩手山カレンダー」の表紙に使用しました。盛岡市の石井スポーツにも暫くの間展示してもらいました。

タイトル左の写真（2023年5月4日撮影）は佐藤久江さんの撮影によるもので、スキーで滑っているのは私です。黒谷地から登り、この斜面は茶臼山頂周辺です。当時84歳でした。年齢的にいつ滑れなくなるか分からないので、スキーの写真を撮ってもらうことにし、一緒に行って撮影してもらいました。昔、故三浦敬三さんが田沢湖スキー場に来た際、一緒に滑ったことがあります。その時、三浦さんは80歳で、私は50代でした。その時の三浦さんの姿を見て、自分はいつまで滑ることができるのだろうと思い、「いつまで滑れるか」が1つの目標になりました。今もまだ、滑りたいと思っています。

5月「カモシカとケルン」（岩手山7.5合目にて） 撮影日：2022年5月25日

この日は5時33分に馬返しを出発しました。登山口から1合目の間でエゾハルゼミが鳴いていました。この写真は、八合目避難小屋からの下山途中で撮影したものです。姫神山の上には金床雲が見えていました。このケルンはハート谷と鬼又沢の間の尾根の上部にあり冬のみ行けるルートに位置しています。シャッターを切った瞬間、カモシカと一瞬目が合いました。もう1枚と思いましたが、カモシカが目を逸らしてしまい、2枚目は撮れませんでした。そして直ぐ岩場から下りて7合目の方向へ行っていました。跡を追うと再び姿が見えました。ここでは絵にならないと思いながらも何枚かシャッターを切りました。その後、カモシカはまたケルンの方へ戻って行きましたが、もう姿は見えませんでした。「カモシカとケルン」。下界の緑も季節的によく、本当にラッキーな1枚でした。実はカメラを構えた時にはカモシカがいることには気付きませんでした。このアングルのケルンは時々撮影しているので、それがカモシカと引き合わせてくれたのかもしれません。2015年撮影の同じアングルの写真と比較すると、ケルンの周りの岩が大きく崩れ、新しい表面が見られます。またケルンの最上部の石も落ちてしまい様子が異なっています。岩手山の岩は脆く、ここは風の通り道でもあるため経年劣化や凍結で崩れてしまいます。長く岩手山に登っていると、登山道や植物なども含め、様々な変化を感じることがありますが、いつも新鮮で魅力的な山であることに変わりはありません。だからこそ、何度でも登りたい山なのだと思います。



一年間にわたり「岩手山カレンダー」撮影エピソードをお読みいただき、ありがとうございました。今年、一部コースの入山規制の解除が報じられました。これからも体力が続く限り表情豊かな岩手山の姿を撮り続けたいと思っています。なお、このコーナーの掲載にあたり川口主任、坂内さん、広野さんには並々ならぬお世話をいただきました。厚くお礼申し上げます。

(画像協力：岩手山地区パークボランティア)

2/7 「網張の森で イグルーを作ろう！」



寒波の影響で気温は-11℃でしたが、雪を踏み固め、ブロックを切り出し、運んで積み上げていると体が温まり、次第に形作られるイグルーに夢中になりました。「さらさら雪が踏み固めると頑丈なブロックになることに驚いた」参加者感想より。総勢 22 名

3/8 「網張の森大木巡り」 (スノーシューハイキング)



行事前日から降り続いていたフカフカの雪を踏みしめ森の中へ。ブナ・ミズナラ・ダケカンバ・オオヤマザクラ等の大木を巡り、幹回りの測定も体験。森に佇む大木に思いを巡らせました。「新雪が最高。樹木の説明も楽しめた。シン・マザーツリーが立派で見ることができて良かった」参加者感想より。総勢 23 名

ミニプラス

2/11、3/20 「モモンガ調査体験」



網張の森に設置しているモモンガの巣箱の一部を下ろし、営巣した巣材の観察や巣箱の設置を体験しました。生態の紹介や撮影動画の観賞もあり、モモンガの生息を知ってもらう機会となりました。延べ 27 名

▼ ▲ 依頼行事 ▼ ▲

1/31 ゆるゆるデイキャンプフェア in 栗石 「スノーシュー体験」



旧上長山小学校にて開催された栗石町主催のフェアにビジターセンターも「スノーシュー体験」で協力しました。「雪の上を沈まず歩くことができる」と初めての感覚を楽しんでもらいました。

2/8、2/15 しずくいし観光協会主催 「網張の森雪上ハイキング」



初心者向けのスノーシューモニターツアーを網張の森で実施。山岳ガイドの米澤氏による案内と解説でハイキングを楽しみました。「自分達だけでは歩けない森を案内してもらった」等の感想がありました。

2/9 岩手大学人文社会科学部 「スポーツ社会実習スノーシュー体験」



昨年 12 月に網張の自然の魅力や行事実施について聞き取りに訪れた学生を含め、3~4年生が実際にスノーシューハイキングを体験。各自感想や行事参加者を増やすアイデアなどをレポートしてもらい、建設的な意見が集まりました。

3/14 盛岡山友会「雪上ハイキング」



森の大木を巡りました。「解説を聞いてじっくり観察すると面白い」参加者感想より。

3/20 まっぞのスポーツクラブ 「春の息吹を体験！網張の森スノーシューさんぽ」

春の日差しを感じながら森を歩きました。「スノーシューにはまりそう」参加者感想より。



インフォメーション

4/5 「根開きのブナの森で春を探そう」
9:30~13:30 網張ビジターセンター集合
定員：15名 ※事前要予約
参加料：大人800円 小学生以下400円
(スノーシューレンタル別途200円)

5/17 「鞍掛山麓 花愛でるハイキング」
9:30~14:30 たきざわ自然情報センター集合
講師：藤澤 英俊 氏(岩手植物の会)
定員：15名 ※要事前予約
参加料：大人800円 小学生以下400円
共催：滝沢市・滝沢市山岳協会・
(一社)滝沢市観光物産協会

毎週土日開催「ミニ企画行事」
10:00~11:00 網張ビジターセンター集合
内容：「森林浴散歩」や「生きもの探検隊」等
網張の自然とふれあう行事
(毎月 HP・FB に掲載)
定員：各7名 ※要事前予約
参加料：一人400円

◆◆ 現在開催中のビジターセンター企画展 ◆◆

3月1日(日)~4月30日(木)

富山 昇 写真展「巖鷲山と取り巻く桜」



前回の「厳冬の裏岩手の風景」に次ぐ写真展です。とき折々の景色にカメラを向け、薄れる記憶をつなぎとめるために取り留めた写真の中から、今回は、巖鷲山(岩手山)とその周囲に咲く桜を紹介します。厳しい冬を乗り越え咲き誇る桜。皆さんにはなじみのある風景かと思いますが、ご覧いただければ幸いです。この写真展が終わるころには、見ごろを迎えることと思います。

- 出展者の言葉(一部抜粋)より -

モモンガのつばやき

旧正月に合わせ、ビニールそりを作りました。ペレット燃料の袋に段ボールを入れ、紐をテープで固定したら完成です。イラストとロゴを加えると、ぐっとオリジナル仕様の印象に。薬師社前の坂にそのレーンも整備し、そりを無料で貸し出しました。

ささやかな雪遊びではありませんが、「滑る楽しさ」の原点が味わえる気がします。(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 1月 749人 ◆ 2月 964人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 1月 -9.9℃ ◆ 2月 -5.8℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡栗石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL <http://amihari17.ec-net.jp>
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp
開館 冬期(11月から3月末まで) 9時~17時 毎週火曜日休館